

---

---

## 世界の都市 日本の都市

〈外人が日本の都市をみれば〉

柴田徳衛

---

---

### ① イメージとはちがう現実

世界の都市の人々が日本の都市を訪れるとき、どのような印象を得るであろうか。

日本の都市といっても、古都のしっとりとした姿をたたえる京都あるいは金沢といった町と、近代的重化学工業の中心をなす、川崎や四日市などとはだいぶ違うかもしれない。

そこで、かりにオリンピックの観光のため、豪華客船で生れて初めて横浜に着き、それからバスで東京の都心に入り、昼を代々木か駒沢のオリンピック競技場ですごし、夕方を銀座の百貨店か横浜駅名店街で買物にすごし、夜を同じく銀座ないしは横浜伊勢佐木町周辺のバー・キャバレーかナイトクラブで遊んでくるとする。

この人々に日本の都市のイメージはどう映るか。まず東京湾口から横浜港に近づき、山下公園やマリン・タワーが見えてきても、まだそれほど感動しないかもしれない。緑の岡を遠く見て、はるばる東洋へ来たという感慨にふけるくらいだろう。さてそうして上陸したとき、大部分の外人はちょっと失望するだろう。というのは、この人々のほとんどはマルコ・ポーロ以来の日出づる国にたいする宣伝がゆきわたってきたためか、あるいは最近の平安朝モノの日本映画が海外に流行したり、また日本政府の現代日本にたいする海外宣伝が不足のためか、また日本の都市といえば人力車がゆきかい、高島田のゲイシャ・ガールが歩きまわり、庶民はハダシか草履のキモノ姿で歩いているイメージが、頭にこびりついているのである。ところがいざ上陸してみるとだいぶ様子が違う。

そしてバスで東京へ第二京浜国道あたりを走るとすれば、日本の都市がじつに多忙に、誰もが駆けまわっているのにびっくりするだろう。香港を経由して来たならば、それほどでもないかもしれぬが、北欧ないしニュージーランド辺から直行してくるとすれば、人々は日本の都市の多忙さにびっくりするはずである。パチンコやの賑やかさも、なにか年に一度のカーニバルのため特別にそうになっているのかとみるに違いない。

## ② 目をみはる世界一流

そしていよいよまっすぐにオリンピック会場に着けば、正直目をみはるに違いない。たしかに外国の都市にも、日本のトランジスター製品や精巧なカメラ、美しい繊維製品はいまハンランしている。しかし観念的にはまだ前にのべたごとく「日本」という名に遠いアジアの中世的ロマンスの国というイメージがどこか残っている。だが、こうして国立競技場や同水泳場、駒沢グラウンドへきてみると、そのモダンな建築スタイル、豪華な施設に驚くに違いない。外人の日本都市印象記というものが、オリンピックを機によく新聞の特集記事としてのせられ、そこではいろいろ批判は出ている。しかし私は、遠くからはじめてきた普通の外人には、こうしたオリンピック施設にたいする驚きと感嘆がたしかにあると信じる。さらに一步を進め、この10月10日を期して、東海道新幹線をはじめ、美しい新地下鉄線、世界でも一流な豪華ホテル、モノレールや高速道路が開いたことは、ともかく連中にとつても話のタネである。

また少しスポーツ好きの人なら、国立競技場のフィールドに設けられた透視計測器<走り幅とびや三段とびの測定用器>、水泳で5,000分の1秒まで読める全自動式審判装置、重量あげ会場の記録掲示板等も、日本の科学技術水準の高さを示すもので、目をみはるものであろう。

夕方の百貨店へいけば、その飾りつけの華麗さはたしかに世界一流だし、夜のバーやキャバレーもたくさんあり、その規模の大きいことも相当な驚きである。ニューヨークのブロードウェイやパリのモンマルトルになれたお客さんでも、質はともかくそれらの量では絶対感心させられたはずである。

幸いに、心配されていた外人めあてのスリなどの、犯罪オリンピック・コンクールは大した被害も出さずに終わったようだし、タクシーの五輪客へのゆすりもあまり聞かずにすんだ。それどころか、少くとも客席案内表に出された「タクシーもノーチップ」は評判がよかったはずである。

豪華船ないし一流ホテルからオリンピック会場へ直行し、そのあと前記のような買物か観光をして帰国した外人たちには、必ず日本の都市にワンダフルの印象をもち、それまでのイメージを大きく変えるのに役立ったと信じる。もちろん交通マヒや少しの不満のたねはあっても。

## ③ 市民から遊離した施設

しかし、もしそのお客さんがいま少し日本に長くいて、あるいは銀座・カブキ・神宮……といま少し違ったルートを歩いて、日本の都市をみたならば、だいぶ珍らしい、あるいはその人たちの常識と違い「オヤ」と驚くものを見出したであろう。

まず、もしオリンピック競技場から少し離れた、とくに東京の山手あるいは江東ないし鶴見あたりを歩くとすると、奇妙なことを見出すはずだ。まず第一はつい今まで、日本の市民はあれだけオリンピックに熱中し、競技場にも大勢集ってきたのに、その一般の人々自身のスポーツを楽しむような場所がどこにも見当たらないことだ。一体あの人たちはどこで運動をするのだろうか。ちょっと昼休みに簡単なスポーツを楽しむ場所がどこにも見当たらない。もちろんニューヨークでも、下町のスラムなどにはそうしたところがほとんど見当たらない。しかし少し町外れにいけば、なにか運動用の広場がある。またロンドンの郊外など小学校でも相当広い運動場<計算すると東京の児童1人当りの面積の約10倍>をもっている。東京や横浜だと、ゴルフ場や何とかスポーツ・センターというものはたしかにあるがそれらも会員制や有料で、一般の庶民のちょっと昼休みに手軽に行く所でなさそうだ。

さらに日本の市民の家を訪問した人々は、その狭さにびっくりするだろう。捧高飛びに月下の死斗を演じ、最後に優勝したハンセン選手の以下の話を、アメリカ人はごく自然のこととして聞かだろ。すなわち、10年前まだ少年だった頃、捧高飛びをみてたまらなく羨ましくなり、家に帰ってお父さんに話した。お父さんがそれは面白いと、家の庭に急ごしらえの捧高飛びの場をつくり、そこで二人で飛んだ。以来十年その練習と努力が実り…というのである。

さて日本の都市で、子供から捧高飛びをしてみたいといわれ、すぐ「それでは」とわが家の庭にそうした施設をつくってやれる父親が何人いるか。アメリカくないしヨーロッパ>ではなんでもない話が、日本の都市で大変に困難なこととなる。

日本の水泳陣——かつて世界にお家芸と誇った——が不振をきわめ、アメリカがメダルを一手に集めてしまった。なぜか。もちろん手のかき方やバタフライの足の開き方等の技術問題が表面にあるかもしれない。しかしその根本に、私は水泳にたいする最近の都市構造の革命的变化、すなわちアメリカではいま多くの家が庭にプールをもちはじめたこと、町に温水プールがたくさんつくられはじめ、冬でも彼らが自由に多勢泳ぎはじめたこと、という二つの要因をあげてみたい。

水不足に毎年苦しみ、せっかくできたプールも使えない日本の都市。庶民用温水プールなど、まだ各地区にとってもない日本の都市——ここを大きく考えねばなるまい。

#### ④ もつと身近なところに関心を

ここまで書いてくると、日本の都市のそうした施設の貧弱さは、市民の経済力が貧しいからしかたないといわれそうである。少なくとも、日本の市民は昔からそう教えられ、思いこまされてきた。

しかし、この点をとくに私は疑問として出したい。すなわち日本の市民は本当に怠け者で貧しい生活しかせざるをえない人種なのかと。外国から日本へきた人々は、皆その勤勉

で長時間よく働くことに目をみはる。そして技術水準もきわめて高く、前にのべたようなりっぱな施設がつくれたことを十分認める。また百貨店の飾りつけなどをみても、町ゆくレイディたちの服装をみても、日本人の美的センスには十分感心させられるはずだ。国際的にみて日本人のレベルは相当高いといわざるをえない。

そしてオリンピックというお祭りの掛声がかかると、あれだけ派手な施設をつくることができる。それなのに、こと市民の日常生活——外人がちょっと表通りをみただけでは分らない——となると、どうしてこうも立ちおけているのか。庶民住宅の貧弱さはお話にならない。「ああ、お客を招きくつるぐ場所もないので、日本の男はウロウロと、夕方を盛り場で過さねばならぬのだな。あんな派手な盛り場も、住宅という生活の器の貧しさの生んだアダ花なのだな」と、よく見る外人は分るだろう。

あの素晴らしいオリンピック競技場のかたわらにおかれたスマートな移動便所——だがしかしその汚物をとるバキューム・カーは世界に冠たる!!珍品である。こうした長いホースの珍品は、清掃・下水道というもっとも市民生活に身近かな事業をなおざりにした結果出てきた——必要が生んだ発明品——である。

立派な高速道路から少し外れると、もう道はヌカルミである。こんな迷路は世界の諸都市でも、アルジェリアのカスバか中世の名残りを保つ特別なところにしかみられない。日本的都市無計画の象徴である。

少し日本の都市を調べはじめた外人なら、日本人のもつ技術と経済成長力の高さに感心すると同時に、なぜそれが市民の一番身近かな公共施設や都市計画に利用できないのか、理解に苦しむだろう。

都市の政治までみると、さらに上述のような不合理になぜ市民がおとなしくだまっているのか。外人にはもっと不思議にみえてくるだろう。

こんなによく働き、高い技術をもち、立派なオリンピック施設や工場・精密科学製品をつくったわれわれ日本人が、どうしてその一番身近かな都市施設を貧困にさせられたままオトナシク我慢しているのか、いま一度、お互に驚きと不審の眼をもって見直してよさそうである。この再検討があってはじめて、日本の都市も少しづつよくなっていくのであらうから。

<東京都立大学助教授>